# ま　え　が　き

信州大学環境科学研究会（旧名は信州大学環境問題研究教育懇談会．平成３年１月19日の総会でこのように改めた）は、環境科学および環境問題に関心をもつ広い専門分野にわたる信州大学の教官によって構成され、1978年の発足以来1990年度まで、四次にわたって文部省特定研究費の交付を受け、研究活動を行ってきた。

その成果は、すでに「環境科学年報－信州大学」の第13号までの定期刊行物として公にされているほか、1989年および1990年に行われた地域開発と環境問題研究班の研究活動にもとづく公開シンポジウムの成果は、「ゴルフ場・リゾート開発－－地域になにをもたらすか」および「地域開発と水環境」という２冊の出版物として刊行され（いずれも信山社発行、1990年）、関係分野で広く活用されている。

現在の環境問題は、さまざまな汚染や環境破壊の規模、影響、およびそれらのメカニズムが明らかになるにつれて、その基礎的な研究も防止対策も、地球的な観点なしには成り立たない段階に立ち至っている。したがって、地球温暖化、酸性雨、土壌侵食、砂漠化の進行、陸水や海洋の汚染、生物種の絶滅、等々の諸問題をグローバルな観点から研究することはもちろん必要であるが、同時に、“Think globally, act locally”といわれるように、これらの諸現象をひき起す原因となっている個別的な問題をローカルにとらえて研究する態度および過程なしには、問題の解決は望めない。

幸い、この研究会には、環境構成要素の個別の分野ならびに生態系規模の分野だけでなく、環境要因の人体影響に至るまでの広い分野にわたって、これを自然科学および社会科学の方法によって攻究することが可能な多様な研究者を擁しているので、これまでの「信州の環境」に焦点を当てた十数年の研究の蓄積の上に、さらにグローバルな観点を加えてこれを発展させ、信州大学が立地する長野県の自然環境、生活環境および産業環境の保全に資するとともに、地域の具体的な問題の解決を通して、地球環境問題の解決にも寄与することを目指して、研究活動を続けている。また1992年度には、本研究会の会員によるＴＶ公開講座「川と湖の生物」（世話人・理学部 林 秀剛 氏）も計画されている。

さて、1991年度は、「地球環境時代における信州の地域環境保全」のテーマで開始された研究活動の第１年目に当たる。そして、この「環境科学年報－信州大学」の第14号には、本年度の研究活動から生まれた研究報告、総説ならびに要録が収められている。

この年次報告を出版するに当たって、特定研究費の交付に深く感謝するとともに、会員諸賢の今後における更に活発な研究活動を期待する次第である。

1992年３月

信州大学環境科学研究会

世話人　　桜 井 善 雄